

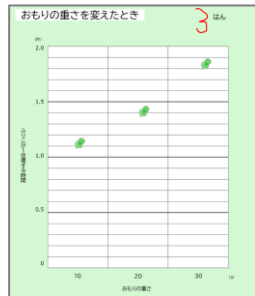



おすすめICT活用事例のご紹介

区分		学年	教科等	単元等	活用ソフト
小		5	理科	振り子の運動	オクリンクプラス
授業内容	振り子が1往復する時間を調べよう				共有コード  pb01JTMXY1146EACQ74H98GVVKRM
	準備： ・共有コードを使用してカードを取得する。 ・授業を作成し、それぞれの実験前に、個人用のカードと班の記録用のカードを送信する。 ・みんなのボードに、3つのボード（重さを変える・ふれはばを変える・長さを変える）を用意する。 ・計測する係やカードに結果を入れる係など、班で役割分担をしておく。				個人用カード（予想・記録・考察） 
	授業の流れ： 1. ストップウォッチの使い方の練習をする。 2. 振り子が1往復する時間を求める計算方法を確認する。 3. 各自でマイボードに送られた個人用のカードを開き、おもりの重さを変えたとき、振り子が 1 往復する時間が変わるかどうか予想して、選択肢から選び、みんなのひろばに提出する。 4. 班ごとに、振り子が10往復する時間をおもりの重さを変えて3回ずつ計測し、個人用のカードまたはノートなどに記録して、1往復する時間の平均を計算する。 5. 班の記録用カードに結果を入れる係は、1往復にかかった時間の座標にピンをさす。 6. 班ごとに、ピン集計された実験結果を見て、気づいたことを話し合う。 7. ふれはばを変える実験も、2～6と同様に予想と実験と考察を行う。 8. 長さを変える実験も、2～6と同様に予想と実験と考察を行う。 9. 全体で集約結果を見て、3つの実験結果から気づいたことを共有する。 10. 各自で振り返り、まとめを個人用のカードやノートなどに書く。 ※授業時数3時間を想定				班の記録用カード 
	ICT利活用のポイント 集計機能を使うことで、どう予想したかすぐに確認ができたり、グループごとの実験結果を即時に集約して、比較しながら考察したりすることができます。				ピン集計例 
	おすすめポイント 視覚化された3つの実験結果を使って振り返ることで、振り子の運動の規則性についてより理解することができます。				